

カトリック六甲教会 教会報

第54回「世界召命祈願の日」(2017年5月7日) 教皇メッセージ

「聖霊によって宣教へと駆り立てられて」

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

わたしたちはこの数年、キリスト者の召命の二つの側面について考えてきました。一つは主の声を聞くために「自分自身から出る」よう求める招きであり、他方は神の召し出しが生まれ、はぐくまれ、明らかにされる、恵みあふれる場である教会共同体の重要性です。

第54回「世界召命祈願の日」にあたり、わたしは今、「キリスト者の召命の宣教的側面」について考えたいと思います。神の声に引き寄せられ、イエスに従う道を歩む人々は、宣教と愛の奉仕を通して兄弟姉妹に福音を伝えたいという、抑えられない願望を自らの内に容易に見いだします。すべてのキリスト者は福音宣教者とされています。キリストの弟子は実際、個人的な慰めとして神の愛のたまものを受けるのでも、自分だけが高めるよう招かれているのでも、経済的な利害に気を配るよう求められているのでもありません。ただひたすら神に愛されていることを喜び、その喜びによって変えられ、その体験を自分だけのものに留めておけないのです。「弟子たちの共同体の生活を満たす福音の喜びは、宣教の喜びです」(教皇フランシスコ、使徒的勧告『福音の喜び』21)。

このように宣教という使命は、キリスト者の生活に飾りのように付け加えられるものではなく、信仰そのものの核心です。主との結びつきには、みことばを告げる預言者として、また神の愛のあかし人として世界に派遣されることが伴います。

たとえ自分の弱さを痛感し失望していても、わたしたちは無力感に襲われたり、悲観主義に陥ったりせずに神を仰ぎ見るべきです。悲観主義は、わたしたちを単調で色あせた生活の消極的な傍観者にするだけです。恐れてはなりません。神ご自身がわたしたちの「汚れた唇」を清めに來られ、わたしたちを宣教にふさわしい者にしてください。(イザヤ6・6-8 参照)。

すべての宣教する弟子は、「よいわざを行い、すべての人をいやした」(使徒言行録 10・38 参照) イエスと同じように、人々のもとに「出向く」よう招く神の声を心の中で聞きます。すべてのキリスト者は、洗礼の恵みによって兄弟姉妹に「キリストを運ぶ人」になると、わたしは前に述べたことがあります(一般謁見講話、2016年1月30日参照)。このことは、奉獻生活や司祭職に招かれ、「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と進んでこたえた人々にとりわけ当てはまります。彼らは、神のいつくしみが人々に豊かに注がれるために、宣教への新たな熱意をもって神殿の聖域から出るよう招かれています(聖香油のミサ説教、2016年3月24日参照)。教会が必要としているのは、真の宝を見つけたために穏やかで自信に満ちた心を持ち、喜びをもって皆にそれを伝えるために出かける聖職者です(マタイ 13・44 参照)。

キリスト教の宣教について語る際には、もちろん多くの疑問が生じます。「福音宣教者であることは何を意味するのでしょうか。福音を告げ知らせる力と勇氣はだれから与えられるのでしょうか。宣教へと駆り立てる福音宣教の論拠は何でしょうか」。 <中略>

わたしたちは福音に基づくこの信頼をもって、宣教の根本である聖霊の静かなわざを受け入れます。絶えず観想的な祈りをささげなければ、司祭職への召命もキリスト教の宣教もありえません。したがってキリスト者の生活は、みことばに耳を傾け、とりわけ聖体礼拝において主との個人的な交わりを深めることによって育まれなければなりません。聖体礼拝は、わたしたちが神と出会う特別な「場」です。

わたしは、とりわけ司祭職と奉獻生活への新たな召命を神に願い求めるためにも、主とのこの深い友情を生きるよう皆さんを強く励まします。神の民は、福音のために生涯をささげる司祭に導かれる必要があります。したがってわたしは、小教区共同体、教会内の諸団体と多くの祈りの会に対し、くじけずに主に祈り続けるよう求めます。主が収穫のために働き手を送ってくださいますように。また、福音を愛し、兄弟姉妹に寄り添い、神のいつくしみ深い愛の生きたしるしとなることのできる司祭を、主がわたしたちに与えてくださいますように。

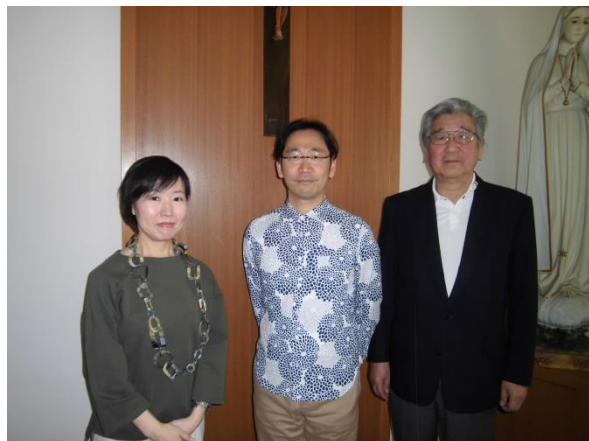
兄弟姉妹の皆さん、とりわけ若者に対してキリストに従うよう説き、提案する情熱を、わたしたちは今も取り戻すことができます。信仰を退屈なもの、単なる「果たすべき義務」ととらえる世論の中で、わたしたちキリスト者の若者は、イエスの姿に絶えず魅了され、イエスのことばと行いによって問いかけられ、駆り立てられることを望んでいます。そして彼らは愛のうちに喜んで自らをささげ、主によって人間的に充実した生活を送るという夢を抱いています。

救い主の母、至聖なるマリアは、自らの若さと情熱をみ手にゆだね、神に対して同じ夢を抱く勇氣をもっておられました。マリアの取り次ぎによって、マリアのように開かれた心、主の呼びかけに「はい。わたしはここにおります」と答える心構え、そして全世界に主を告げ知らせるためにマリアのように出向く（ルカ 1・39 参照）喜びがわたしたちに与えられますように。

バチカンにて
2016年11月27日
待降節第一主日
フランシスコ

ごあいさつ

堤前議長の後を承けて、本年4月より評議会議長を務めることになりました。2年前ぐらいから少しずつ教会のことに関わらせていただいています。まだまだわからないことばかりで、私にどれほどのことができるのか、心もとありません。幸いにも副議長・書記の皆さんが色々ご存じです



新議長団

ので、何事も相談しながら進めていきたいと思えます。

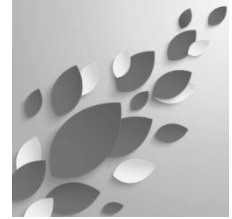
今年度から六甲教会の10年後を見据えた取り組みを行っていくこととなります。どのような行動を起こすにしても、その中心には「互いに愛し合いなさい」（ヨハネ 13・34）というイエス様の命令を置かなければなりません。六甲教会と信徒のひとりひとりが「地の塩、世の光」（マタイ 5・13-16）であり続けることができるように、互いに祈り、愛し合う共同体を作り上げていきましょう。

（小教区評議会 議長 中西 裕樹）



2017年度第1回地区役員会（2017年4月9日）議事録

出席者 中西評議会議長、各地区役員



- 1 2017年度地区役員メンバー自己紹介
- 2 2017年度教会行事日程と行事担当企画チーム（敬称略）
- 3 ご復活のお祝いと受洗者のお祝い会（4月16日）
- 4 東ブロック（神戸中央、住吉、六甲）合同堅信式お祝い会6月11日（日）
- 5 教会行事日程表と地区連絡網の配布
- 6 9月17日（日）壮年会・婦人会主催バーベキュー
- 7 2017年度地区役員会開催日

次回地区役員会 5月28日（日） 13:00～



<行事報告>

2017年復活祭を迎えて

教会にとって、一番大きなお祝い日と言えば、世間一般では、多分クリスマスということになるでしょう。でもわたしたちにとっては、御復活なくしては、すべての存在価値は失われてしまうと言っても過言ではないように思います。

灰の水曜日から四旬節が始まり、毎日のミサの典礼には、悔い改めなさい、心の正しい人は救われる、そして、信じて待つ人には必ず救いが訪れる、と励ましと希望の言葉が綴られています。そして、受難の主日。枝を掲げる人々の群れに歓呼の声を持って迎えらるイエス様、でも待っていたのは、怒号と嘲りと、そして大きな苦しみでした。今年は遅い復活祭で、教会学校も4月8日から始まっています。子供達とともに迎える聖週間、そしてご復活ということで、特別に勉強したわけではないのですが、「聖書と典礼」（聖なる過ぎ越しの三日間）にいつもよりいねいに目を通しました。初代教会の人々が、



まだ記憶に新しかった時に、イエス様が亡くなられた現場に集まって祈りを捧げた、そこから始まって、だんだんその祈りがひろがって行った。そして現在の典礼が形作られたということのようです。



2000年前に思いを馳せ、もしその場に居合わせたら、果たして、イエス様を神の子と認め、その教えを受け入れることができたろうかと考えると、はなはだ自信がなくなるのですけれど、多分、イエス様がその愛のまなざしで、グッと

招いてくださっただろうと信じることにします。最後の晚餐で、極限までの愛を示されて、御聖体の秘跡を残してくださいました。そして、金曜日、自分のことばかり言ってわめき散らす人々にも愛のまなざしを注がれ、すべての人の救いのために命を捧げられたイエス様…。その時を迎えた、弟子たちは、人々はどんな気持ちだったでしょう。蘇られたイエスに出会った弟子たち、婦人たちは…？

そんな風に、ちょっと心を入れてパンフレットに目を通しただけで、何か、今年は、灰の水曜日から始まって、受難の主日、聖なる三日間を経て、復活祭という流れに身を委ねられたという気がしています。

そして、改めて、御復活という大きな喜びを味わい、感謝したいと思います。 (阿部)

受洗者の感想

受洗式で、まず驚いたのは、新しく広くなった教会に約300名の信者の方が参列されている事でした。

その瞬間、約40年前木造の古い柱、机、椅子があり、小さかった六甲教会で、二階からの聖歌隊の皆様の歌声をバックに、神父様から祝福を受け、結婚式を挙げた事を思い出しました。そして又、ここに受洗し、これから皆様と新しい気持ちで人生を過ごしていける喜びと、新たな責任を感じています。

まだまだ忙しく、時間に追われる毎日をごす私ですが、よろしく願います。

(フェルナンド 宮内)



六十年以上ぶりに訪ねた六甲教会でした。

見も知らない私を、温かく迎え入れて下さり、この日を迎えることができました。当日も、沢山の方々から「おめでとう」の言葉をいただきました。本当にありがとうございました。



何十年もの間、心の隅っこにあった穴が埋まったのだと思っております。今後は、小さな小さな一歩ですが、皆様と共に歩んでいければ、と思っております。 (クララ 藤原)

私が、こちらの六甲教会の来させて頂くようになったルーツは、たかとり教会のベトナムの子供達の日本語支援、学習支援がきっかけでした。この支援を主催していらっしゃる聖ビンセンシオ受徳姉妹会で、特に教育に熱心なシスター新田のお導きがずっとあったからで、ここへ来ることを薦めて下さったのもシスターでした。自然の水の流れのように続いて、無事、主のご復活の夜、洗礼式を終えました。感謝の極みです。祝福下さった皆様に感謝！！

(コルカタのテレサ 伊奈)

先日の復活徹夜祭で、息子の侑己が洗礼のお恵みにあずかることができました。いろいろと準備に携わってくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

「私と同じ神様が息子の心の中にもいてくださる」ということは想像していたよりもずっと大きな喜びと安心感を私にもたらしてくれました。

これからは、時には信者同士として同じ立場で、また時には母として親の立場から、彼と一緒にゆっくり、じっくりと信仰を育んでいきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

(アシジのフランシスコ侑己の母)

≪ 各部だより ≫ 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📖 小教区評議会

5月 7日(日)11:30

受洗者・転入者への説明会

5月14日(日)12:00 評議会会議

📖 地区会

5月28日(日)13:00 役員会

📖 三日月会

5月15日(月)14:00 ミサと懇親会

📖 教会学校

5月28日(日) 遠足

≪ お知らせ ≫ 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より ◆

5月13日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOKです。

5月21日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

5月26日(金) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

施設の子どもたちへのケーキ作り

◆ 宣教部より ◆

5月13日に「春の黙想会」が行われます。多くの方のご参加をお待ちしております。

2017年 春の黙想会

テーマ：「福音を生きる、福音を伝える」

日時：5月13日(土)、10時30分～15時(14時～ミサ)

場所：カトリック六甲教会主聖堂

指導：ヨゼフ・アベイヤ神父(カトリック今市教会主任司祭、クラレチアン会)

参加費：無料

対象：どなたでも(事前申込みは不要です)

昼食：各自持参(お茶は用意します)

駐車スペースに限りがあるため、公共交通機関でお越し下さい。

◆ 典礼部より ◆

5月31日(水) 聖母の訪問(祝日)

聖母の訪問ミサ 7:00 10:30

ロザリオの祈り 10:00

皆様ご参加ください。



《 図書室からのお知らせ 》

図書室に入った本(4月)

☆ **人はみな、オンリーワン — だれも幸せになる権利がある —** 森一弘 女子パウロ会
人はみな、尊く、かけがえのない存在であり、誰一人同じ人はいない。その一人ひとりが、生きてきてよかったと思えるための道を語る。(帯から)

軽い「ノリ」や、オリンピックのメダルに「日本、やりました!」の絶叫、快適な生活やサプリなどへの関心・・・ 大半の人々が深刻に考えることを好まくみえる社会の中であって、複雑な人生の現実について、相談できず光を求める人たちに、いくばくかの光になればと出版した。
(あとがきより)

☆ **キリストへの道 — キリスト教の核心がよくわかる本 —** 岩島忠彦 女子パウロ会
…本書は一本道のようにして歩んできた自分の歩みの集大成。
第一部「随想」この二年足らずの時々の想い 第二部「説教」は日曜日のミサ中の説教
第三部「講話」は二十数年前の「洗礼」「ゆるし」「聖体」三つの中心的秘跡についての教会でのお話をまとめた。… (はじめにより)

子どもたちにわかりやすくイエスの復活の物語を語ってくれる3冊の絵本を購入しました。

☆ **いーすたーのおはなし** ジュリエット・デービット文 スティーブ・ホワイトロウ絵
女子パウロ会

☆ **イースター物語** ボブ・ハートマン著 ナディン・ウィッケンデン絵
女子パウロ会

☆ **朝です —復活祭の祈り—** ウリセス・ウィンゼル絵 マリ=アニェス・ゴドラ文
ホワイのちのことば社





みんなの広場

Ave Maria

薫風5月、緯度の高い地方では野山に花が一斉に咲きます。人々は野に出て「神々」を讃えて歌い躍りました。信仰の普及とともにそれは聖母を讃える集いへ変わったといわれます。

何十年か前、まだ青年会員だった頃、毎年5月の一夕、教会の庭に聖母の御像を置いて祈り歌うささやかな「聖母の集い」がありました。

嘗ては何かというと「公教要理」でしたが、最近あまり聞かなくなったようです。第二バチカン公会議の「教会に関する教義憲章」にも、第八章の中の「司牧の指針」で、教会の教導職が薦めてきたマリアに対する信心の慣行や実践を重んじること、過去に決定されたことがらを信心深く守るように勧告しています。

この頃あまり意識されなくなったようですが、毎月信仰生活のテーマがあります。11月の死者の月、10月のロザリオの月、6月は聖心の月、そして5月は聖母の月。

この教会の聖堂が「無原罪の聖母」に捧げられていることも覚えておきましょう。

(ヨハネ 三好)

人々の中で活かされて

私達六甲教会では、信徒による聖体奉仕を伴う病者訪問をしています。キリストの道具として、御病人や一人住まいの方達に寄り添っていくことができると、活動に参加しています。

ある日、私が御聖体を届けています大西さん（教会の受付で勤務していらっしゃる方です）のお部屋の棚にあります「第37回こうべ市民文芸 平成28年度俳句部門佳作」と印された盾が目に入りました。何かと伺いますと、教会の俳句仲間のS氏が大西さんの俳句3句を市民文芸に投稿され、その中の一句が佳作として選ばれたそうです。それを聞かれた教会のお友達がお祝いに訪ねてこられるといった温かい交流やS氏の優しい配慮に、冬の寒い夕方、心温まる思いで帰路につきました。



暮れなずむ 野地蔵守る 冬雀 恭子

教会では神父様ご自身が大量の病者訪問をされていますが、大阪教区で勉強し、課程を終了した12名が、聖体奉仕を伴う病者訪問をお手伝いしています。ひと月に一回・二回ですが、皆様、楽しみにお待ちいただいています。

私は、病者訪問をお待ち下さる信徒の方との出会いを通して、頂くものの多いことを痛感しています。神様を通して、同じ信仰に生かされている幸せをかみしめています。

(クララ 藤井)

教会報 6月号の発行は5月28日(日)です。 原稿は5月14日(日)までに教会受付へご提出 ください。FAX及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	発行責任者	アルフレド・セゴビア
	編 集	広 報 部